

3 清水和夫のラグレイト独占試乗

HONDA



2 新型MPV



Vol.193
1999 August

どこよりも早い3大インプレッションで
ビッグに新装刊



家族が楽しくなるRV生活情報誌

発表直後なのに本誌だけ試乗
元祖ミニバンの
強烈リベンジ!

8

Tokuma Shoten 620yen

アールズイ・マガジン

Magazine

劇的フルチェンジの1.5BOXにイチバン早く乗った!

1

丸わかり
大特集

セレナは 新 家族標準

- 卵ひろい
- 魚つかみ取り
- バター作り
- そば打ち
- 他



手作り味覚体験

みんなで出かけるには週末は2倍楽しくなる!



得する
お楽しみ
企画

484名プレゼント!!
特製ディパック&
親子ペアTシャツ他
シールで遊べる
夏休みカレンダー

SPECIAL
とし込み付録
高畑勲監督作品
ボニー・マクキャー
とびの山田くん
公開記念
特製ポストカード

ニューモデル2機種が大集合
絶対ほしい!!
DVDカーナビ

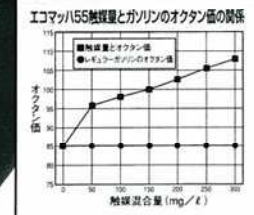
燃料添加剤の巻

大手カー用品店での取り扱いで、話題沸騰中の燃料添加剤「エコマッハ55」。加速力、燃費の向上、排ガス低減などに効くらしい。カタログには「レギュラーがハイオクに！」という魅力的な言葉も登場している。コレはぜひ試すべし！と検証に乗り出す我が調査室。果たして期待どおりの結果は得られるのか？

今月のテストサンプル

ファイラックインターナショナル
Eco-Mach 55
エコマッハゴゴゴ
1万9800円(税別)
(RV車用)

NASA研究員も認めた全車種対応の添加剤
驚異の燃費向上で燃料代が
年間8292円も安くなる



↑燃料が完全燃焼している場合はデータで立証されている。燃え残りが出ないのでエンジンも長持ちする

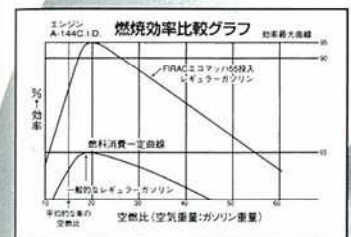


HONDA HR-V JS4 (CVT)

問い合わせ TEL 0538-55-4258

●燃焼効率がUP!!

ファイラックセラミックの粒々が燃料内の不完全燃焼成分を分解!? 仁丹のような粒状に成型されたファイラックセラミックと、液体タイプの助燃剤を55/45の割合でミックス。給油時に燃料タンクにザーッと流し込むだけで、燃料を改良して完全燃焼をうながす。最大のポイントは、1回注入するだけで10万kmも効果を発揮するロングライフ設計だということ。全国のオートバックスで取り扱い中。



↑ガソリンのオクタン価が一挙に10%以上も向上! レギュラーがハイオクに変身してしまうとはビックリだ

●使用方法



↑エコマッハ55を投入後、ガソリン満タンにして走ればOK。5~6時間で効いてくる



燃費の調査室!

実験1 加速

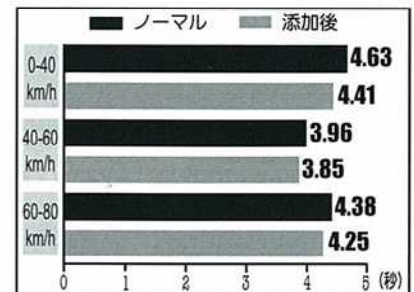
気になっていた低回転域でのスカスカ感が消え、クルマが力強くダッシュしてくれるようになった!

実験2 出力&トルク

シャシーダイナモによる計測でパワー&トルクを直視。常用域でのトルクアップ効果は大きかった

実験3 燃費

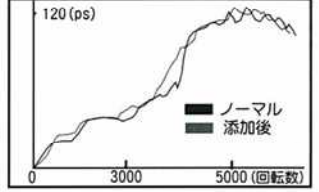
市街地から高速道路まで、およそ300kmのコースを走行して実用燃費を計測。向上度には大満足!



↑数値上はコマ数秒の差とはいえ、力強さはたしかに向上している。ホンダエンジンは添加物の効果が出にくい性格なのだそうだが、それでも十分なデータを叩き出した

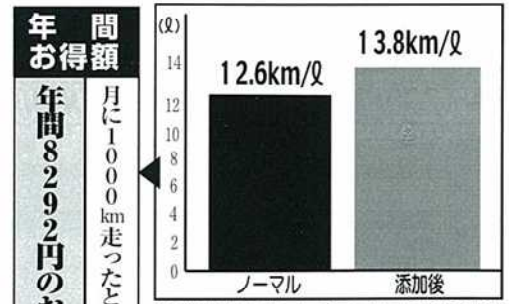
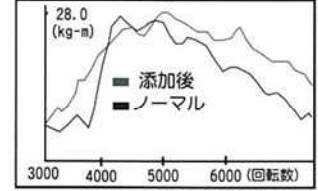
●トルク

↓回転数の影響を受けずに出力をほぼ一定に保つよう、トルクのほうは滑らかに右下がりになっている。じつによく調整されたエンジンだ。ここでの注目は、トルクが立ち上がる3000回転オーバーの特性。エコマッハ55を添加すると明らかにデータが向上している



●出力

↑4000回転前後から56000回転オーバーまで、出力がほとんど変化せず見事に回り切っている。このあたりのエンジン特性はまさにホンダの真骨頂。ただし、もともとの燃焼効率が高いため、エコマッハ55を添加しても最高出力に変化はなかった



↑好燃費が特徴のホンダエンジンをさらに好燃費にグレードアップするわけだ。なお、燃費データの計測は現在も続行、経年変化を調査中だ

調査結果 購入時はけっこうな出費になるがトータルで考えれば絶対に買った

2万円近い値札に二足を踏む人が多いかもしれないが、1回注入してしまえば10万kmも効果が発揮されるのだから、トータルで考えればお得度は高い。さらに、どちらかと言えばスポーツドライブよりも一般走行で効果を発揮するタイプというのも実用的でいい。使用方法が簡単で面倒なメンテも要らないので、誰が使っても効果を得られるはずだ。

今回のテスト車であるHR-V、じつは編纂部ツネコニの私物なのだ。購入以来ほとんど乗り回している。ノーマル時の走りについては熟知している。ホンダ車に乗るのならばおなじみの「トルクが立ち上がる3000回転前後の抵抗がゼロなんじゃないか?」と悩まされるほど「トルク」が重要なポイント。ホンダエンジンの特徴。あまりにも軽やかに回るのに、中低回転域ではなんとなくスカスカした手ごたえを感じてしまうこともある(実際にはトルクはしっかり出ているのだが)。

CVTミッションを搭載したテスト車では、いくらアクセルを踏んでもエンジン回転がほぼ一定に保たれてしまう。そのため低回転域でのデータは取れないので、3000回転から計測スタート。まずはトルク特性のグラフを見よう。発進や加速で多用する3000回転から3800回転までのデータが、ノーマルと比べて大きく向上している。しかも、4000回転オーバーの高出力域ではそれほどデータ差はないが、中回転から高出力域へのつながりがよくなった分だけ加速が向上、乗りやすさにも貢献するといっわけだ。

燃料の燃焼効率が良くなれば、そのぶんアクセルを踏み込まずとも走るようになる。つまりは燃費が向上するわけで、サイフばかりが地球環境にも貢献することになる。ノーマルの12.6km/Qとエコマッハ55を投入することで、エコマッハ55を添加するデータはリッター当たり1.2km/Q向上の13.8km/Qを叩き出した。というわけで、毎月1000km走る人は年間8000円以上も得る計算。まさにエコマッハ55を入れることでオイル交換の回数も少なくて済むという経済効果もある。



↑測定データの向上はもちろんだが、最大の美点はディーゼルエンジンの黒煙がほとんど減少すること。坂道での全力加速でも黒煙がほとんど見えなくなる

排ガスCHECK

エンジンが最新LEV並みに低公害化する



ツツジ教授
クルマ好きの科学者。ケミカル商品はもちろん、クルマに関するモノなら、なんでも調査室に持ち込む癖がある